

認知症高齢者見守り事業（認知症サポーター養成講座）

取り組みの概要

認知症に対する正しい知識をもつ人を1人でも増やすため、地域や職域で認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らしてつづけることができる地域づくりを推進します。

協働のきっかけ
 高齢化が進み認知症の人が急増しているなか、認知症を理解し認知症の人や家族を温かく見守り支援する人をつくる「認知症100万人キャラバン」が平成17年度からスタートしたことをきっかけに、帯広市でも、それまで行っていた認知症の普及啓発と併せて、認知症サポーター養成講座をスタートしました。
 サポーターのなかから地域のリーダーとして、まちづくりの担い手が育つことも期待されます。



協働の成果
 全国キャラバンメイト連絡協議会のまとめでは、全国で認知症サポーターが1,200万人を超えていると報告がされています。帯広市でも17,000人を超え、今後も毎年サポーターを増やしていく予定です。

協働のポイント

更に多くの市民、幅広い年代や団体にPRが必要です。サポーターとして活動したい人の活動展開・方策について、具体的な検討が必要です。

特に認知症サポーターには何かを特別にやってもらうものではありません。
 認知症を正しく理解してもらい、認知症の人や家族を温かく見守る応援者になってもらいます。

